

第三者評価



株式会社創コンサルティング
代表取締役

海野みづえ

1. 評価の手法と範囲

本評価にあたって、富士重工の主要工場である群馬製作所の査察とCSR担当役員とのインタビューを行い、当報告書を査読して意見を表明しています。

2. 意見

(1) 全体構成

報告書の特集では、「高品質で個性のある商品」のなかに環境や安全を取り込むということで、先進技術をコアにした富士重工の特徴が表れています。製品開発だけでなく、CSR方針についてもコア・ビジネスの要素を積極的に盛り込むことで、自動車メーカーとしての特色をもったCSR活動が展開できると考えます。

CSRの活動範囲がまだ国内拠点に限られているようですが、グループ全体まで広げることが重要であり、特に海外での生産、販売まで含めることがこれからの課題です。パフォーマンス管理では、基幹となるKPIを検討しこれをグローバルベースで収集していくなど、CSR活動の推進に活用することも求められます。

また報告内容について、風力発電などエコテクノロジーへの取り組みはステークホルダーの最大の関心分野でもあり、これからも是非継続的に報告してください。

(2) 社会性報告

企業行動規範を定め、内部統制の体制はできているので、これからは社内への意識浸透を継続して展開することです。これも富士重工だけでなく、グループ全体で共有すべきものとして取り組んでください。

お客さまのパートでは、これまでのやり方に対してどこが課題であり、そこをどう体質を変えようとしているのか、その方向を示すことが必要だと思います。「お客さま第一主義」にあらためて取り組むことが、富士

重工のビジネスにどれだけ重要かが知りたいところです。

全体に今回の報告は「やっていること」の記載が中心ですが、今後は全体の方針をたてどのような活動をすべきかの重点を評価し、目標設定～成果評価を報告するというサイクルをご検討いただきたいです。

(3) 環境報告

これまで活動を積み重ねてきた分野なので、体制の構築から目標設定、PDCAの展開は十分回っていることがわかります。また独自の環境パフォーマンス評価制度をつくり、経年で成果を測っているところは評価できる取り組みです。課題は、ボランティアプランを含めここでのマネジメントが国内に限られていることです。地球規模化する環境問題の意識をより強くもち、グローバルなチェック&レビューが必要

です。製品開発については、富士重工の特色がもっともよく表せる項目ですが、現在の報告では個々の技術の説明が専門的すぎて、かえってポイントがわかりにくくなってしまいました。巻頭の特集で紹介している技術開発とあわせ、燃費、排出ガス、クリーンエネルギー車という3つの重点要素をどう達成しているか、もう少しシンプルにわかるような工夫を求めたいところです。

うんの
海野 みづえ

1983年千葉大学卒業、85年同大学院修了。
経営コンサルティング会社勤務の後、1996年に創コンサルティングを設立。
日本企業のグローバル経営に視点置き、独自の分析眼で環境・CSR分野での経営のあり方を提言、企業活動の実務をサポートしている。
プラザー工業社外取締役、東京大学大学院、法政大学大学院非常勤講師。著書に「グローバルCSR調達」2006年（共著）、「SRIと新しい企業・金融」2007年（共著）などがある。
<http://www.sotech.co.jp>

第三者評価を頂いて

昨年は報告書掲載情報の妥当性・正確性確認のため「第三者審査」を受審いたしました。

今年は当社の活動に対して客観的なご意見を頂くことを狙いとして「第三者評価」を受け、多くの有益なアドバイスを頂きました。今後、これらのご意見を真摯に受け止め、諸活動のレベルアップを進めてまいります。

(1) 全体構成

2006環境・社会報告書に対する読者の方々からのご意見を取り入れ、「読みやすく、分かりやすく、また、社会性報告の充実」を編集方針として製作いたしました。今後、さらに分かりやすくスバルとして特徴のある報告書を目指してまいります。

また、CSR活動や環境活動においては「グループ対応やグローバ

ル対応の強化」を重点課題としてとらえ、組織体制の整備を含めて段階的に着実な対応を図ってまいります。

(2) 社会性報告

CSR活動としては新中期経営計画とともにスタートを切った段階ではありますが、CSR活動の啓発を含めて各事業所との連携を強化しつつ具体的な重点項目を設定し、PDCAサイクルを回していくとともに、グループ対応ならびにグローバル対応を段階的に進めてまいります。

(3) 環境報告

これまでの環境活動の継続的改善に加えて、環境パフォーマンス活動における商品やサービス分野における環境対応の強化ならびにグローバル対応の強化など環境ボランティアプランの推進を図ってまいります。

～編集・発行～

富士重工業株式会社 総務部 CSR・環境推進室 ●鈴木達也 関川隆雄 栗田一幸
お問い合わせ先 ●TEL03-3347-2036 FAX03-3347-2381
製作支援・印刷 ●フェロールーム株式会社 株式会社久栄社